



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2017-2018年度 国際ロータリーのテーマ

2017年

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

R.I 会長 **イアン H. S. ライズリー**



ロータリー:
変化をもたらす

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。
パストガバナー **前原 勝 樹**

会長 **前原 勝** 幹事 **園田 誠**

クラブ会報・情報委員会

平岩千鶴子・木村洋一・山崎一順・牛腸章

9月25日号

第3041回例会 (9月11日(月)第2例会)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 点 鐘 | 8. 卓 話 |
| 2. ロータリーソング斉唱 | 「離島に生まれて、そして相撲に出会って」 |
| 3. 来訪者紹介 | 桐生市教育委員会青年課 |
| 4. 会長の時間 | 青少年センター 副所長 前田 和秀様 |
| 5. 幹事報告 | 9. 点 鐘 |
| 6. 委員会報告 | |
| 7. 善行青少年表彰 青少年奉仕委員会担当 | |

ようこそビジター

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 第2550地区 | (株)M&Rイングリッシュスクール |
| ガバナーエレクト 伊東 永峯 君(宇都宮西RC) | 代表取締役 ランドルフ・マイケル 様 |
| 地区幹事 里村 佳行 君(宇都宮西RC) | ランドルフ・るみこ 様 |
| 地区会計長 床井 健一 君(宇都宮西RC) | 〈卓話者〉 桐生市教育委員会青少年課 |
| 田村 由幸 君(宇都宮北RC) | 青少年センター 副所長 前田 和秀 様 |
| デロリス グレゴワ さん(ハワイ ワイキキ RC) | 〈米山奨学生〉 沈 軼驊 君 |

バナー交換



第2550地区ガバナーエレクト伊藤永峯君
来年ポールハリス生誕150年の
記念行事として月桂樹を植樹予定です。
ハワイワイキキRCよりハワイ初の女性会員デロリス
グレゴワさん たまたま桐生に来ていてメイク
にいらっしやいました。

会長の時間

本日は、宇都宮からロータリアンの皆様方がお越し頂いて
おります。来年度の周年事業としてポールハリスの月
桂樹を植樹されたいとご希望でございます。桐生RC
のポールハリス月桂樹は、3世に当りますが、かえりみれば
1935年(昭和10年)にロータリー創始者のポールハ
リスがRI親善大使として来日した際に「友愛の木」として
帝国ホテル中庭に植えたものが1世、その後、帝国ホテ
ル改築の際1967年(昭和42年)に第一生命本社に移
植された300本のうち7本が2世として生き残り、1991
年(平成3年)に桐生RCが創立35周年を記念して皇
居北の丸公園にあった2世の枝を苗木に育てた上で植
樹したものが、現在この桐生倶楽部にある3世でありま
す。前原勝樹パストガバナーの時代(1968年~1969年
度)は、新潟群馬栃木茨城の4県が1区で、宇都宮と
桐生が同じ355地区のお仲間であり、前原勝樹ガバナ
ーの1つ前のガバナーは、宇都宮RCの金谷正男ガバ
ナー(あの日光金谷ホテルオーナー)でございました。
そんな過去のご縁からもこのたびポールハリス月桂樹4
世が友情の印として宇都宮の地に根付くことを心から願
うしだいでございます。さて、本日の善行青少年表彰で
は、日頃学校生活で学習や部活、ボランティア活動等
を通じて模範となる成果を上げられた生徒さんたちが、

米山奨学生 奨学金授与



沈 軼驊 君

善行青少年表彰式

司会 青少年奉仕副委員長 坂本長規

1. 開 会
2. 主旨説明 青少年奉仕委員長 大島千賀子
3. 受賞者の紹介 青少年奉仕委員長 大島千賀子
4. 表 彰

受賞者代表
桐生市立桜木中学校
小池 柚香 様



5. 会長祝辞 桐生ロータリークラブ
会長 前原 勝
6. 受賞者代表謝辞
受賞者代表
群馬県立桐生南高等学校 橋本 茉奈実 様
7. 閉 会
受賞者の紹介 (敬称略)

ご指導頂いた先生方共々お越し頂きましたので、後程、担当委員会を通じてご紹介、表彰させていただきます。

《報 告》

- ・9/4 定例理事会
- ・9/5 国連UNHCR協会へアフリカでの活動資金を高橋奉仕プロジェクト室長が持参
- ・9/6 桐生5RC会長幹事会
- ・9/10 ゴルフ部研修会、ゴルフ部野球部合同懇親会
- ・9/11 会長候補者推薦委員会

《予 定》

- ・9/17 RLIセミナー 副幹事 出席
- ・9/18 祝日(敬老の日)の為、休会
- ・9/20 青少年交換ホストファミリー会議
会長・幹事・国際奉仕委員会
- ・9/24 米山記念奨学セミナー
副会長、会長E、副幹事 出席
- ・9/25 足利RCとの合同夜間例会
点鐘:午後6時30分 場所:桐生倶楽部

幹事報告

- ・桐生西、桐生赤城の各 RC より週報到着。
- ・次週 18 日(月)は、休会となります。次回例会は、25 日(月)足利RCとの合同夜間例会です。桐生倶楽部で、点鐘は、午後 6 時 30 分です。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成 29 年 9 月 11 日)
総員 65 名:出席 49 名
平成 29 年 8 月 28 日例会修正出席率:79.70%

😊 ニコニコボックス

第 2550 地区ガバナーエレクト伊東永峯君…来年ポールハリスが生まれて 150 年となります。記念行事としてポールと関係のある月桂樹をいただけることになり感謝しまして/第 2550 地区地区幹事里村佳行君、地区会計長床井健一君、田村由幸君…本日はお世話になります。宜しく願いいたします/前原勝君…宇都宮西、北各クラブより伊東ガバナーエレクトをはじめ4名様がお越しくださいました/園田誠君…宇都宮各クラブの皆様をお迎えして/北川洋君、松島宏明君…前田さんをお迎えして/飯山順一郎君…前田さんの卓話に感謝をして/朝倉剛太郎君、高橋弘史君、大島千賀子さん、田中一枝さん…表彰おめでとうございます。前田先生本日は、よろしく願いします/松島宏明君、須永博之君…先日の納涼会でビンゴに夫婦で当たり賞品を頂きました。ありがとうございました/須永博之君…北川先生、園田さんお世話になりました。また次回楽しみにしています/堀明君…結婚祝/岸田信克君…誕生日祝。

学 校 名	被表彰者名	引率者
桐生市立中央中学校	今泉春乃	小林真樹
桐生市立清流中学校	向田匠吾	斉藤剛志
桐生市立境野中学校	大川陽子	武佳行
桐生市立広沢中学校	角田和貴	堀越正樹
桐生市立桜木中学校	小池柚香	渡邊正樹
桐生市立梅田中学校	峯岸楓貴	石井智明
桐生市立相生中学校	山田芽衣	楡井こず枝
桐生市立川内中学校	鈴木大斗	大橋和比古
桐生市立新里中学校	坂部雅弥	山中純一
桐生市立黒保根中学校	新井一輝	津田徳尚
明照学園樹徳中学校	前原菜波	北爪充
桐生大学附属中学校	中野日愛	伊藤潤
群馬県立桐生高等学校	富岡早希	関口憲司
群馬県立桐生工業高等学校	深澤駿介	今井郁夫
群馬県立桐生女子高等学校	六本木光虹	益子千里
群馬県立桐生南高等学校	橋本茉奈実	内田竜哉
群馬県立桐生西高等学校	市毛美空	細川康明
桐生市立商業高等学校	竹内瑞貴	諸星尚紀
桐生第一高等学校	小谷さや香	齊藤純美
明照学園樹徳高等学校	杉木美穂	禅野卓菜
県立あさひ特別支援学校	秋間俊弥	渡辺淳



卓 話



「離島にうまれて、
そして相撲に出会って」
桐生市教育委員会青年課
青少年センター
副所長 前田 和秀 様

本日は、善行表彰誠におめでとうございます。皆さんの影の努力が本日のこの日に繋がったのだと思います。皆さんは、この表彰は皆さん自身に取ってとても喜ばしいことですが、もっと喜んでるのは皆さんの保護者の方ではないでしょうか。皆さんには、学校からいただく通知票、塾による評価、友達からの信頼度それだけではないですが、一定の自分に対しての周りの目の評価で自分の立ち位置がおおよそわかりますが、私の場合 3 人の子供がいましたが、保護者の方は子供を疑心暗鬼の中で育てているので、皆さんがこの善行表彰をされることで、これまで自分が育ててきたことに対し、間違っていなかったことを確信したものと思います。本日の式典は、いわば皆さんが保護者に送る通知票のようなものです。本当に敬意と共に祝福を致します。

さて、私は群馬県の生まれではございません。伊勢神宮、松坂牛、真珠等で有名な三重県のひなびた小島の漁村で生を受けました。三重県は、その昔伊勢の国、伊賀の国、志摩の国この三国が重なってできた県であります。私は、旧国で言えば志摩の国、当時海賊大名九鬼義隆公が統治をしており、伊勢神宮から少し南に下がったところの鳥羽市というところで、さらに船にゆられること 40 分神島と言うところになります。古くは三島由紀夫先生の「潮騒」という小説、映画等の舞台になった周囲 4 km に満たない離島です。小学校 4 年生まで電気も無く、幼稚園、保育園も無いくいきなり小学校に入学で戸惑いながら通学をしていました。私たちには、学校に行っても給食もなく、お昼の鐘が鳴ると一目散に家に帰ります。何年生だったかは忘れましたが、理科の実験で鮎の解剖を行うことになりましたが、沼も川もありませんので、もちろん鮎なんて島にはいません。その代わりに 50 cm くらいの鮎に似た黒鯛を釣ってきて解剖をし始めましたが、いつの間にか立派な刺身に変貌をしました。学校で口にした記憶の中では食べ物では、これだけだったような気がします。お昼の休み時間が 50 分程でしょうか、家族は漁に出かけているので、ご飯の用意がしてあるわけですが、たまに忙しいときには流し台の上に魚が一匹ド〜ンとあるわけです。これは何を意味するかと言えば「自分で刺身でも何でもして食べる」という親の涙が出るやさしい愛情ですね。それをさばいて食べてまた一目散に学校に戻って来るという生活でした。当時の我々の年代は命に支障が出ますので魚がさばけることは当たり前でした。しかし、可哀想と思われるかもしれませんが、それはそれなりに生活するのに何の不自由もありませんでした。他から情報が入ってこないで、島以外の生活を知りませんから、比較するものがないので、当たり前のように、四季に応じた生活をしていました。周囲 4 km の島には 4 km の世界があるのです。しかしながら、大人になった今でも、給食、幼稚園、保育園のこのキョウ

ードの話になるとその話題の中に入っていけないことが悔しい。とにかく、情報のメディアもなければ、電気もない生活は平穩この上なく、今で言うストレスのない毎日でした。今考えると情報が入ってこないことは気が楽でした。朝日と共に起き、夕日と共に寝る、紀元前と何ら変わりはない人間の営みです。それが昭和 38 年小学校 4 年生の時に電気が点き、ランプ掃除から解放され、島民が電気は点いたけれど、なぜか提灯行列をしたのを覚えています。もちろん生活は一変しました。我々にとっては、ペリー来航と同じ感覚です。翌年、5 年生の時東京オリンピックの開催された昭和 39 年です。潮騒のロケが行われ、我々もエキストラとして出演をしました。吉永小百合、浜田光夫、当時の青春スターです。その頃は、海の臭いと油の臭いしか嗅いだことがない私たちにとって、吉永小百合さん、松尾加代さんの振りまく香りは鮮烈で思わず 2 回ほど深呼吸をしたのを覚えています。あれが私が初めて嗅いだ文化の香りでした。そのエキストラのお礼に瓶に入ったキリンレモンとノートを買いましたが、ノートはともかく、大きな問題が起きました。そもそも学校に栓抜きがない。栓抜きの使い方を知らない、飲み方を知らない、我々が今まで飲んできたのは、水と溺れたときの海水ぐらいです。漁業協同組合まで行って借りてきて、また冷えていた方が美味しいとのことで、沢水の流れているところを見張りながら授業中ではありましたが 2 名交代でずっとその瓶を見つけていました。それから先生の指導のもと、正しい清涼飲料水の飲み方を教わりました。正しい飲み方があったかどうかはわかりませんが、世の中にこんなに美味しいものがあるなんて知らなかった。楽しい思い出です。神島小、中学校を無事卒業後、西野カナの母校三重高等学校に入学をして、最初は野球部に籍を置きました。その後、故あってウエートリフティング部に入部して、たまたま部室を共同で使用していたのが相撲部でした。当時の相撲部は全国的にも名を馳せた部活で、1 年生部員の入部が全くなく、ちょっといやな予感もしつつバーベル相手に練習に励んでいましたが、相撲部の部長から「あいつくれ」と言って部長同士で私の意思に関係なく相撲部に移籍になっていました。どうも、背の高い人はウエイトでは大成しないそうです。それと小耳に挟んだことですが、当時の学生食堂でラーメンが 40 円の時代にそのラーメン一杯の引替えに当時の部長同士で相撲部に移籍を了承されたようであります。全く私の意思には関係がありません。いわば 40 円で売られたようなものです。だからといって、「私やめます」とは言いづらい時代なのです。その日から、もう無理矢理相撲部です。人生の転機はどこにあるのかわかりません。とどめは監督の一言「前田、まわしを巻くと横綱みたいだな」なんて、当時の私の体格、身長 180cm、体重 57 kg、割り箸に絆創膏を巻いたような身体です。今なら「何で横綱やねん」と言えるのですが、田舎から出てきた私は、「うんうんそうか俺はそんな素質があるのか」その言葉を信じ、現在に至っております。最近、どうも騙されたんじゃないかな？と感じております。石を投げれば、サッカーや野球、バスケット経験者に当たりますが、なかなか相撲経験者には当たりません。でも監督をされていた先生には、本当に感謝し切れません。今日があるのも先生と先輩のおかげです。相撲という競

技だけではなく武道全般に言えることですが、相手にコテンパンにやられ、投げつけられ、顔を張られ、鼻血は出るは、口から血を流して、骨折をしても相手には対戦の感謝と勝利の祝福の『有難うございました』の最期の礼はしなくてはなりません。負けて悔しいし、血だらけになりながら、そのセレモニーの礼だけはしなくては土俵から降ろして貰えません。いい加減な頭の下げ方では許してくれません。それは、日本人が持つ「潔さ」の精神から来ているものと思っています。『往生際の良さ、言い訳をしない、素直さを持つ』『潔さ』については色々な捉え方はあるでしょうが、そのことは私自身、常に心懸けるようにしています。しかし、当時は、さほど相撲に興味があったわけでもなく、自分で扉を開けて入ったわけでもないが、とにかく、入った以上は一生懸命やらなければということで稽古もいっぱいやりましたが、それよりも何よりも身体を大きくしなければ勝負になりません。その日から飯との戦いです。夕食は、ノルマを課し、最低お茶碗12杯、調子のいいときは15杯くらいを食していました。農家の下宿だったのですが、さすがにいつもご飯が残っているわけではなく、おばさんを困らせたものです。お陰で翌年には77kgほどになり、どうやら相撲が取れる身体になりました。それでもやはり、軽量です。勝つには、相手より早く立つことが条件です。立ち会いに磨きを掛け、頭から相手の頭に突き刺すようにと教えられたとおりにしましたが、「なんか変？」土俵には私の髪の毛が束で落ちている、相手とのあたりで摩擦によってもって行かれたのです。元々毛根に根性がなく、当たりがうまくかみ合わないと摩擦で髪の毛の燃える臭いがあります。そんなことを何度も繰り返した結果、私の頭には5個ほどの500円玉大のハゲが出来上がっていました。さすがに先生も「お前だけは頭で行かなくていい」とお墨付きをいただきました。もうその日から目から火花を出さなくていいと思うと嬉しかった記憶があります。先輩たちに可愛がられ、毎回泣きながらぶつかって行ったお陰で、それなりの成績も上げるようになり、一人前に育てていただきました。その先輩方にお礼を言いたくとも、亡くなられた方が多くなってしまいました。その時は、こんな無茶なことばかりかと思っていましたが、きつい稽古、辛い思いをした分だけ必ず報われます。言い換えれば、努力したらその分だけ成績は残って行きます。ある日、校長室に呼ばれました。頭の中は、「んん・・・ヤバイあのことがばれたかな、あれかな？」とドキドキ思案しながら凍り付いた顔で校長室に行きました。その中にいたのは、当時の時津風親方(横綱鏡里)でした。分家して立田川部屋として独立しようとした矢先で、要はスカウトに来たのです。当然、プロとはどのようなものか、おおよそ見当は付いていたのですが、親と相談したい旨、話しました。その時は、返事を待って貰いました。私は、プロとしてやって行くには決定的な問題がありました。それは、大相撲には関取と呼ばれる十両以上は大銀杏(シンボル)幕下以下については丁髷をすることがルールとしてあります。私は、先に言いましたとおり、毛根が弱くともプロのあたりに耐えられる毛根をもっていないのです。母にそのことを話したら、急に嗚咽が始まり、自分がそのように産んでやれなかったことへの責任を感じたのでしょうか。悪いことをしました。自分の親に対する

気遣いのなさ吉情は酸鼻です。今では申し訳ない気持ちでいっぱいです。その時から、大相撲の道はあきらめました。若い時の自信と言うのは恐ろしいもので「一丁やってみるか」あたかも成功でもしたような気持ちになってしまいます。そんな甘いものじゃありません。昔の力士になった人は、地方の農家、漁村の次男、三男の人が多く、喰う事に困らない相撲の世界を選択し、貧困から早く抜け出したいというので、今の力士たちとはちょっと考え方が違います。何の職業でも秀でた人間は、並大抵の努力ではなりません。まさに、血のにじむ努力があったればこそ、揺るぎない自信になって行くのです。相撲の世界は、相撲の神様、双葉山と並び称される昭和の大横綱、大鵬、皆さんのおじいちゃん、おばあちゃんの時代に活躍した名力士です。この大鵬という横綱は、「巨人・大鵬・卵焼き」子どもの好きなものとして、その当時、一世を風靡した名力士です。ロシア人のハーフとして、昭和15年に生まれております。今風に言えば、かなりのイケメンです。この横綱は、力士として成長するまでに大変なイジメに合い、もの凄いい偏見を持たれて、終戦間もない頃ですから言葉に表せないくらいの差別を受けたに違いありません。中学を卒業後、北海道の営林署の職員として働く訳ですが、ここでもその出生を揶揄されて苦しい時期に、二所ノ関親方に声を掛けて貰い、まさに血の滲む努力をして出世街道を駆けていった力士です。世はこの横綱を「天才」と呼び讃えました。しかし、本人はこの「天才」と言う言葉を極端に嫌って、実は後々わかったことですが、人が見ていないところ、休んでいる間に夢中で稽古してその努力の跡を絶対他人に見せない、言わないで来ました。「努力は人に見せるものではない。」と言う名言を残し、決して口外はしなかったそうです。確かに、あの当時は、これを「稽古と呼ぶのか」と言われるくらいの凄まじい光景が展開されていました。口の中に、塩を放り込ませる、竹刀で殴る、髷を持って引きずるとか、今では絶対やらないことを当時は当たり前のようにやっていました。しかし、その子どもの頃に受けたイジメや貧困に比べれば、相撲界でのこのようなことは何でもなかったかもしれません。大鵬関は耐えきって、横綱まで上り詰めました。「努力することのできる天才」だったんだと思います。後々現役時代から日本赤十字を通じて血液運搬車(大鵬号)を72才のこの世を去るまで、70台寄贈して世界的な人格者に送られる日本人唯一の世界人道者賞を受賞し、ローマ法王と並び称される程の人物です。没後国民栄誉賞を受賞しましたが相撲界だけでなく、日本国民全体が当然生前に授与されるべき人であると思っていました。遅きに失した感があります。生前に授与されていればどれほど喜んだでしょう。引退して、まもなく大病を発症し、協会の要職から身を引きましたが、相撲界に残した足跡とこの功績は今でも色褪せてはおりません。72年の生涯、悔いはないものと思います。我々相撲に携わる者として尊敬してやまない人なのです。私には、大鵬関と皆さんがダブルのです。是非、皆さん方、このまま成長してください。社会に出て、辛いこと、悲しいこと様々な難題が押し寄せてきます。しかし、それを糧として、また、この表彰を支えとして、さらに大きく成長をされることをご期待致します。